

みの〜れをもっと“ホッ”とに♪♪



四季文化館企画実行委員
演劇ファミリー Myuメンバー
みやじま ゆういちろう
宮嶋 勇一郎さん

「みの〜れはまた明日も
来たくなる場所ですね」
と笑顔で話す宮嶋さん。

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.89

陽だまりが恋しい季節になりました。お日様の匂いのする洗濯物や布団に癒されますね。冬の足音が近づいてきて、銀杏やナナカマドの色が鮮やかにになって私たちの目を楽しませてくれます。今回は、今年度から四季文化館企画実行委員に仲間入りした、演劇ファミリーMyuのメンバーで羽鳥地区にお住いの宮嶋勇一郎さん取材します。

今年に挑戦の年にしたい!!

宮嶋さんは東京生まれで、幼稚園の時に父親の転勤で大阪に移り住みました。大学生の時にレストランでアルバイトしたことがきっかけで、包丁を持つことが楽しくなり、料理に目覚めたそうです。

「大学を卒業後、本格的に調理の勉強がしたくて京都にある調理師学校に入学して、西洋料理について学びました。今では食に関する関心が高まっています。当時は香辛料を探すのも大変でしたね。調理師学校を卒業後は知人から山梨県の清里にあるホテルを紹介してもらい、料理以外にもたくさん貴重な体験ができて、楽しい環境でした」と当時を振り返る宮嶋さん。

「ホテルにいた頃はバレエ団を招いて野外公演を行ったこともあり、あの光景はMyuのメンバーにもぜひ見せたいです」と懐かしそうに話してくれました。

奥さんとの出会いも清里。「奥さんは清里にあこがれて同じホテルのフロントとしてアルバイトをしていました。9年務めたホテルを退職して山梨県に移り、2人でパン屋さんで働きはじめました。以前民宿だったところを借りて暮らしていましたが、大阪が茨城に住む家を見つけようということになって、茨城のほうがいいのんびりできそうだったので、ここになったんです」と宮嶋さん。

「初めてみの〜れにきたのは保育園の発表会でしたね。昨年の春、娘が学校からもちってきた『はっぴいふるじえくと』Myuが企画する、より身近に演劇やミュージカルを感じてもらったためのワークショップのチラシを見て、行ってみたいと言った奥さんと参加したいと言ったので、送迎等もあるし娘が『私Myuに入りたい!!』って言うてきたので、送迎等もあるし大変そうだなと思いつつも、子どもたちの気持ちを汲んでMyuに入団したんです。」と宮嶋さん。最初の頃は奥さんが娘を送迎していたそうですが、「たまたま

私が送迎をしたとき、風のホールで稽古を行っていたのですが、すっとなんか入ったんです。Myuの自然な雰囲気が入りやすかったんですね。その後稽古を見学したりするうちにMyuメンバーと話す機会も増えました。来年は『Myuに入りたい!!』と話す息子も小学生になるので、ゆくゆくは親子で舞台上に立てたいですね」と楽しそうに話してくれました。

みの〜れの印象を聞いてみると「こんな近くにみの〜れがあつて、みの〜れを知らなかった時期がもったいないなって思ったりもしました。子どもがいなかったらここに来る機会もなかったのかな? 子どもに後押しされることが多いですね。なので今年自分でも挑戦する年にしてみよう」と決めた、四季文化館企画実行委員になったんです。みの〜れはホッとする場所ですね。明日も行ってみようかなって思うんですよ」と人をホッとさせる笑顔で和やかに話してくれました。